

薬剤部

薬剤部長 仲鉢 英夫

薬剤部の展望と実績

2015年の薬剤部は大きな変革を始める1年になりました。外来処方の院外処方せんへの切り替えが軌道にのり、救命救急領域への薬剤師常駐体制確立、症例検討勉強会の継続、学会での年間15演題以上の発表を継続的に行うことができました。薬学教育6年制課程を修了した薬剤師を迎え入れ4年目となりましたが、臨床能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を持った患者貢献のできる臨床薬剤師への社会的ニーズに応えきれない現状を打破していくために、大きな一歩を踏み出すことができました。

院外処方せんへの移行は大きなチャンスでありました。神奈川県の実薬分業率は全国でも上位であり、逆紹介率を向上させる必要があった当院としては院外処方へ移行し、「かかりつけ薬局」を患者さんに作って頂くことが必要と考えました。そのため県内で2番目に処方せんへの臨床検査値の掲載を開始しました。これは調剤薬局の薬剤師の方に当院の患者さんへ少しでも関心をもって薬歴管理をお願いしたいとの思いです。

病院機能の専門性が高くなる中、入院患者さんへの薬物治療も複雑となり危険性も高まってきていました。薬剤部として医薬品の安全性を維持していくことは責務であり、回診やカンファレンスへの参加に業務をシフトし、医薬品の適正使用への取り組みに更に貢献することを目標としました。その一つの取り組みとして、周術期薬剤師外来をスタートしました。これにより医師からの休薬指示を患者へ丁寧にわかりやすく説明すると同時に術中管理をする麻酔科へ適正な薬剤情報を伝えることができます。

また、手薄であった休日の薬剤管理指導を強化しました。これは新規入院されてきた患者に対し24時間以内の薬学的介入を行うことを目標にしています。薬歴と副作用情報などの完全な把握、医薬品情報の

有効な利用、薬物投与前の徹底した安全性の確認、持参薬のチェック、積極な処方提案など処方前からの総合的な薬学的ケアを進めていきます。医療の担い手として医療の質の向上に少しでも貢献できればと思います。

教育の面では、ファーマシューティカルケア（患者のQOLを向上させる確実な結果を目的とした責任ある薬物治療の提供）の実践を目指し、症例検討勉強会を継続しました。これは毎月テーマを設定し、基礎勉強会と症例検討の2部構成であり、若手教育の場ではありますが、経験年数の長い薬剤師も共に学ぶ体制で行っております。またこの内容をWebにて離島僻地のグループ病院へも配信しており、学ぶ機会が少ない地域や症例の少ない地域で働く薬剤師のスキル均てん化を図ると同時に、2025年に向けて今できることをコツコツと進め、医療の質・医療経済向上の一翼になりたいと考えています。

2015年業務量

薬剤管理指導件数	26,943件／年 (月平均 2,245件)
外来処方箋枚数	70,517枚／年 (月平均 5,876枚)
入院処方箋枚数	128,115枚／年 (月平均 10,676枚)
注射薬払い出し本数	534,453本／年 (月平均 44,537本)
外来化学療法加算	9,499件／年 (月平均 792件)

2015年学術業績

学会発表

1. 萬淳史, 三好良太郎, 小野祐太朗, 坂井かつ江, 大澤栄子, 佐藤守彦: 湘南鎌倉総合病院の季節

-
- 性インフルエンザの診断と状況. 第30回日本環境感染症学会総会・学術集会, 兵庫, 2015, 2.
2. 藤村一軌, 仲鉢英夫: 当院におけるダプトマイシンの使用実態調査. 第30回日本環境感染症学会総会・学術集会, 兵庫, 2015, 2.
 3. 星吉行, 仲鉢英夫: 当院におけるアドレナリン自己注射薬の使用状況について. 日本薬学会 第135年会, 兵庫, 2015, 3.
 4. 仲鉢英夫, 堀井孝太, 畑田崇, 串田一樹: 離島医療から学んだこと (第2報). 日本薬学会 第135年会, 兵庫, 2015, 3.
 5. 仲鉢英夫, 大森俊和, 藤村一軌: 当院でのDIC治療における遺伝子組換えトロンボモジュリン α 投与の使用状況. 日本薬学会 第135年会, 兵庫, 2015, 3.
 6. 仲鉢英夫, 大森俊和, 藤村一軌, 田浦稔基, 畑田崇, 藤村義明: 地域医療でのファーマシューティカルケアの実践を目指して～Web会議システムを利用したe-ラーニング～. 日本プライマリケア連合学会学術大会, 茨城, 2015, 6.
 7. 門谷靖裕, 仲鉢英夫, 下山ライ, 佐藤洋子, 田中久美子: 局所進行乳癌におけるベバシズマブ併用療法の有用性. 日本癌治療学会, 北海道, 2015, 7.
 8. 宮田祐一, 仲鉢英夫: 当院ICUにおける薬剤師業務の取り組み. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会, 茨城, 2015, 8.
 9. 藤村一軌, 仲鉢英夫: 尿量低下を契機にバンコマイシンの血中濃度上昇を認めた1例. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会, 茨城, 2015, 8.
 10. 太田裕, 仲鉢英夫: ワルファリン服用患者に対する出血, 血栓症の発生を防ぐための当院での取り組み. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会, 茨城, 2015, 8.
 11. 大森俊和, 仲鉢英夫: 症例検討を通しての薬剤師教育～救急・集中治療域を中心に～. 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会, 茨城, 2015, 8.
 12. 太田裕, 仲鉢英夫: 抗痙攣薬が必要なコンプライアンス不良の透析患者において, 腎排泄型のガバペンチンで痙攣を抑えた1例. 第9回日本腎臓病薬物療法学会学術集会, 宮城, 2015, 10.
 13. 大塚秀人, 仲鉢英夫: ワルファリン服用維持血液透析患者におけるアミオダロンのPT-INRへの影響. 第9回日本腎臓病薬物療法学会学術集会, 宮城, 2015, 10.
 14. 簗島隆仁, 仲鉢英夫: 甲状腺クリーゼを経験して薬剤師として学ぶこと. 第25回日本医療薬学会年会, 神奈川, 2015, 11.
 15. 橋本貴広, 仲鉢英夫: フェニトイン投与による徐脈, 心停止が疑われた1症例. 第25回日本医療薬学会年会, 神奈川, 2015, 11.
 16. 星吉行, 仲鉢英夫: 当院における「乾燥人血液凝固第IX因子複合体」の使用の現状について. 第25回日本医療薬学会年会, 神奈川, 2015, 11.
 17. 長岡和徳, 仲鉢英夫: Vitamin K投与量によるPT-INRへの影響. 第25回日本医療薬学会年会, 神奈川, 2015, 11.
- 徳洲会研究会 講演・発表**
1. 大森俊和, 仲鉢英夫: 当院における集中治療患者への関わり～症例を通じての薬剤師教育～. 第2回 徳洲会九州・奄美・沖縄ブロック薬剤部臨床業務研究会, 福岡, 2015, 2.
 2. 長岡和徳, 錦佑輔: 湘南鎌倉総合病院における褥瘡業務. 関西・大阪ブロック褥瘡研究会, 大阪, 2015, 2.
 3. 門谷靖裕: 薬剤師が化学療法に関わり患者にどのように貢献するか “治療の意義と患者が
-

どのようにがん治療をうけているか” 関東ブロック教育研修会，東京，2015，2.

4. 齋藤佳苗：当院での低血糖による搬送患者の内服について. 第20回 徳洲会東日本糖尿病研究会，千葉，2015，11.
5. 桃井歩：当院における糖尿病療養指導士（薬剤師）の関わり. 第20回 徳洲会東日本糖尿病研究会，千葉，2015，11.

<講演・講義>

1. 仲鉢英夫：院外処方せんの臨床検査値表記に期待すること. 戸塚区薬剤会研修会，神奈川，2015，7.
 2. 仲鉢英夫：当院でのDIC治療における遺伝子組換えトロンボモジュリン α 投与の使用状況. 神奈川敗血症セミナー，神奈川，2015，11.
 3. 宮田祐一：当院における術前外来の投薬管理について. 湘南地区 薬薬連携セミナー，神奈川，2015，11.
-